

菅 佳夫

## \*冬至 (LE SOLSTICE D' HIVER)



夏には太陽が真上にあって、部屋には陽光 (les rayons du soleil) が入りませんが、冬になると太陽は地平線の近くを横切っていく感じで、光も斜めに射して眩しく、部屋の奥の壁にまで当たり、陰も足が長くなります。晴れの日が少なく、日が短いだけに、天気の良い日には、日当りの明るさや暖かさ、自然の恵みをとても有り難く思います。12月21日の「冬至」を迎えて、これから1分、2分と日が長くなることを思うと、クリスマス、そしてお正月、と、何か希望に胸膨らむ嬉しさを感じます。

## \*クリスマス (LE NOEL)

今日から冬休み (les vacances de Noël)、いつものように駅、空港、高速道路等が一斉に混み出しました。スキーに出かける人もあるでしょうが、大半は家族でクリスマスを祝う為に故郷へ帰るようです。そこでクリスマスについて一寸調べてみました。

クリスマスについては歴史家ですらキリストが何時生まれたのかを知らず (les historiens ne savent pas précisément quand est né Jésus)、354年に時の法王リベールがケルトやゲルマン或いはオリエントの異教徒達 (les païens) の祭日であった12月25日をキリスト誕生の日と定めたのだそうです。フランス語の「ノエル」は、ガリア人の「冬至の祭り」(la fête du solstice



d' hiver) を表わす「新しい太陽」《nolohel》が変化したものと云われます。クリスマス・ツリー (le sapin de Noël) は新生、復活の象徴である常緑樹の樅の木が16世紀に最初にアルザス地方のセレスタに立てられた記録があり、全国的に飾られるようになったのは19世紀になってからだそうです。サンタクロースはフランス語では「ノエルのパパ」(Papa Noël, le Père Noël) と云いますが、人に施しをして寛大な子供達の守護の聖人である聖ニコラスを祝う習慣をオランダの植民達が17世紀にアメリカへ持ち込んだのですが、「聖ニコラス」をオランダ語で《Sinter Klaas》と云い、それが《Santa Claus》となりました。

1860年ハーバース・ウィークリー紙に載ったサンタクロースの絵が赤い服に太いベルト、その服装に1931年にコカコーラが白を加えてカンパニー・カラーの赤と白にして、太った白ひげの男 (un homme bedonnant à la barbe blanche) に着せて宣伝に使って以来、現在のサンタクロースの服装になったようです。



私も「パリの小さな幼稚園」で今年も3回に亘り「ホーホー、メリー・クリスマス、ジョワイユ・ノエル、、、」とサンタさんを演じ、プレゼント(les cadeaux)を配りましたが、疑わしげにこちらを見つめる子供達の顔を可愛らしく思いました。

クリスマスのケーキ“ビューシュ”(la bûche)は“薪”のこと、家族で暖炉を囲むので“薪”の形に菓子を作ったのは19世紀のフランスの菓子屋さん、今日ではデザイン

も凝って、値段も高くなり、6人前位の大きさで、マカロンで有名なラデュレでは92ユーロ、ダロワイヨでは110ユーロ、ルノートルで120ユーロ、、、眺めるだけで十分な気がします。

そして生牡蠣、伊勢海老、フォアグラ、キャビア、、、普段は高くて買えない物を目出度いこの時に食べる傾向があるようです。皆様もどうぞ暖かで楽しく  
« Joyeux Noël! »



### \*パリ市庁舎 (L' HOTEL DE VILLE DE PARIS)

中世紀にセーヌ河岸(la grève)の広場に職を求めて労働者達が集まっていた(Au moyen âge, la place de Grève était le rendez-vous des ouvriers sans travail) ことから今日のストライキを表わす « la grève » という言葉が生まれたのですが、そのグレーヴ広場に礎石が置かれたのは1533年の事(La première pierre est posée en 1533)、ルネッサンス様式の現在の建物は1871年の火災で焼失した後に再建されたものです。

« Hôtel » と云うものですから、友人の一人が「今度パリへ来たら、あそこへ泊ろう、、、」と

云った程綺麗で立派な建物です。現在では市庁舎前広場(Place de l' Hôtel de Ville)と名前が変わった嘗てのグレーヴ広場には毎年アイス・スケート場(la patinoire)が設けられ、市民に冬の楽しみを提供しています。スケートリンクは氷の厚さが8cm、大人用が1200m<sup>2</sup>、6才未満の子供用が208m<sup>2</sup>の広さ(la piste glacée se compose d' un espace de 1200 mètres carrés pour les adultes et



d' un autre de 208 mètres carrés réservé aux enfants de moins de 6 ans)、**入場無料、貸しスケートは5ユーロ、3月2日迄毎日12時-22時、土、日、祭日は9時-22時、安全の為に指導員も常駐しています。**

\*エッフェル塔 “階段売ります” ( LA TOUR EIFFEL < un escalier en vente > )



美術骨董品取り扱い専門のアルキュリアル社が、このほどエッフェル塔の鉄階段の一部を売りに出しました。それは塔の 2 階と 3 階を結ぶ鍛鉄製の階段(Un tronçon d' escalier reliant les 2e et 3e étages)で 1983 年に取り外された物 (la pièce avait été démontée en 1983) 、高さが 3m50、19 段あり、重さ 750 キロ、1889 年に造られた “骨董品” で、販売希望価格は 2 万から 3 万ユーロとのこと (Datant de 1889, il se compose de 19 marches en fer forgé, soit 3,50 mètres de haut pour 750 kilos. Elle est estimée entre 20 000 et 30 000 euros.)パリのお土産に如何ですか。

\* “ピカソ、陶芸家と地中海” 展 ( Expo. < Picasso céramiste et la Méditerranée > )



南仏のヴァローリス (Vallauris) は陶磁器の町として知られていますが、そこにアトリエを持って陶芸家としても大いに活躍したピカソの作品 150 点余りを、ピカソとは違った繊細な高級陶磁器を 18 世紀以来今日も作り続ける “セーヴル焼き” の本拠にある “シテ・ドゥ・セラミック” に展示しています。ピカソの指の動きから土は生き生きと生まれ変わり、動き、踊り、語りかける、.....、独特の作品を、これ程多数展示するのは初めてとのことです。(《 L' art de la métamorphose 》 - Sous les doigts de Picasso, la terre s' anime,,,,,,Plus de 150 oeuvres du maître sont exposées pour la première fois au musée de Sèvres.)



Cité de la céramique(2,place de la Manufacture,92310 Sèvres)にて2014年5月19日迄火曜日を除く毎日10時-17時、金、土、日は19時迄、12月25日、1月1日、5月1日は休館、入場料8ユーロ、メトロ Pont de Sèvres 下車、徒歩で橋を渡る、T2線 Musée de Sèvres 下車 [www.sevresciteceramique.fr](http://www.sevresciteceramique.fr)

2013年12月22日 Saint François Xavier 日の出08時42・日の入16時56、気温：パリ朝夕5℃・日中11℃ 曇・雨、ニース10℃・15℃ 雨、ストラスプール4℃・12℃ 曇天  
\*今年も暮れ行きます。皆様、どうぞ健康で平穏無事な良い年をお迎え下さい。 菅 佳夫